



■収穫までの1年

収穫には多くの時間と人手が必要です。

夏の収穫が終わると、翌年もおいしい梨がなるように作業が始まります。まず、梨園全体の土を良くするために、肥料を散布しま

大島梨

「赤城の恵ブランド」。それは、空っ風の吹く赤城山麓の前橋で、妥協を許さず、手間を惜しまず、生産者が丹精込めて作った前橋の自信作のみに与えられたブランドです。ここでは、その認証品を紹介。第一回目は、「大島梨」です。

上大島町や下大島町などでは、みずみずしい梨を江戸時代から作り続けています。8月に入ると、県道前橋館林線などで梨直売の案内を多く見掛けるようになります。こうした直売の梨を、市外、さらには県外からも買い求めに来る人がいるようです。



vol. 1



す。冬に入ると、平棚へ導くための剪定を行います。4月になると人工交配を行い、害虫や自然災害から果実を守るためにネットを張ります。さらに、5月の間引き、6月の草刈りなどの作業が続きます。収穫は、小ぶりやや酸味が強い「新水」から始まり、糖度が高く代表的な品種の「幸水」、梨を食べ慣れた人からも人気が高い「豊水」へと続きます。

■健康・栄養

梨は水分を多く含み、体の熱を冷ます働きがあります。また甘味成分の果糖やブドウ糖など、エネルギー源が豊富です。さらさらした食感石細胞と呼ばれる繊維の固まりで、便秘予防につながります。

■生産者からのメッセージ

ことしの大島梨は、例年並みの収穫を迎えられそうです。私たちが手塩に掛けて育てた梨は、冷蔵庫で冷やして食べると、より一層おいしくいただけます。今後も「食の安全・安心」を守りつつ、皆さまに愛される梨を作っていきます。

問い合わせは

JA前橋市小屋原出張所

027-296-0026

まちなかの魅力を創り出したい



「やる気の木プロジェクト」実行委員長

飯塚 悠さん 20歳
関根町三丁目

市内の大学や専門学校の学生が中心市街地の活性化を目指す「やる気の木プロジェクト」の実行委員長を務めている。このプロジェクトは、中心市街地で学生が行うイベントなどを支援。中心市街地の活性化や、学生の「やる気」を育てることに取り組んでいる。

飯塚さんは現在、群馬大の3年生で、大学のイベント企画サークルの代表として、活動している。前橋合同学園祭や七夕まつりなど、中心市街地で行われるイベントの運営に積極的に携わっている姿が市まちなか再生室の目に留まり、声が掛かった。

「私たちの世代は、にぎわっていた頃の中心市街地を知りません。だからこそ、まちなかならではの新しい魅力を創り出

せるのではないかと思います」

市内14の大学・専門学校から集まった約30人が市の若手職員とともに5月からミーティングを重ねている。

「現実的な意見だけでなく、若者らしい斬新なアイデアを出していきたいですね」プロジェクトの活動を多くの人に知ってもらうため、フェイスブックページやエフエム放送で積極的に広報活動を行っている。

「私たちの活動は継続していくことが最も大切ですので、この活動を次の人たちにつなげていきたいですね。そして前橋の中心市街地が多くの方が交流する場になったらいいなと思います」

飯塚さんの思いが、多くの若者の「やる気」を掘り起こすに違いない。



上毛電鉄の魅力を伝える展示

7月23日から31日まで、市役所1階ロビーで、上毛電鉄の利用促進と開業85周年を記念して企画展を開催。懐かしい駅舎や電車の写真、大胡駅のジオラマなどを展示しました。8月18日(日)と9月15日(日)には、デハ101の臨時運行も行います。ぜひ、ご乗車ください。



広瀬川でアートを楽しむ

7月14日、広瀬川アート散歩が開催されました。アートを通してまちなかの魅力を再発見してもらうため、前橋西ロータリークラブをはじめ、大勢の人がこの催しを企画。当日は約200人が参加し、広瀬川周辺のお気に入りの場所でスケッチを楽しんでいました。



地元の産業を見て触れて体験

7月23日、夏休み親子の工場見学を開催しました。みまつ食品ではギョウザの製造工程の見学やギョウザ作りを体験。引き続き日新電機ではソーラーカーの試乗や雷実験を見学しました。参加者にとって楽しい発見と体験が詰まった一日となりました。



収蔵作品と若手作家の共演

7月4日からアーツ前橋プレオープン展示「コレクション+ からだが語る」が始まりました。期間は9月1日(日)までの木～日曜。身体表現をテーマに、人物が描かれた収蔵作品や、本市出身のアーティスト・下山直紀さんと村田峰紀さんの多彩な作品が楽しめます。